

職場体験 感想文コンクール2025

タイトル	私を変えた温かさ	事務局	6-1
学校名	酒田市立第一中学校	氏名	西塚みのり

私は小さい頃から知らない人と会話したり、大きな声ではっきりと話すことに苦手意識がありました。いずれ克服したいと思ってもそのために行動を起こすことは全くしませんでした。

そんな私は職場体験を通して若葉旅館さんに行くことにしました。理由は、接客業が基本的な旅館なら私自身の苦手意識を少しでも克服できるのでは、とっていたからです。事前に担当の方にお食事処、新芽さんのランチのお手伝いの体験ができると言われていたので、職場体験に行く前は、「本当に私に接客業ができるのか?」、「今からでも他の友達に変わってもらったほうがいいのでは?」と不安で仕方ありませんでした。ですが、そんな不安や思いも吹き飛ばしてくれる2日間の職場体験となったのです。

一日目に若葉旅館さんに着いてフロントの方に挨拶をしたときは不安が残っていたけれど、フロントの方から励ましてもらい、心が少し軽くなりました。エプロンとバンダナをつけ、担当の方に言われた通りに厨房へ向かうとそこには数人の方がランチの準備をされていました。もう準備をされているんだ、と思いつつ厨房に少し大きめの声で挨拶をしてから、私にとっての一番最初のお仕事が始まりました。まずはお客様にお出しするおしぼりをたたむ作業で、私の中ではうまくたためていると思っても「もう少し綺麗にたたんで下さい。」とおっしゃっていて、営業前にもお客様への「おもてなし」は始まっているんだ、と実感することができました。次に、新芽ランチさんならではの日替わりメニューを3つの看板に書かせていただき、丁寧な字で書くことを工夫しました。ですが、「字は大きく書いてください。2日目には気をつけるように。」とご指摘を頂き、明日は絶対に気をつけよう、社会に出たときには一つの工夫が鍵にもきつとなるんだと強く思いました。そして、ついに新芽さんが開店しましたが、開店直後にたくさんのお客様がお店の中に入店されて、店内はすぐに満員になりました。流石に驚きを隠せませんでした。事前に「お客様が入店されたら、大きな声で挨拶をしてくださいね。」や「常に笑顔を欠かさず、周りをよく見るように。」とアドバイスを頂いていたので、私に出せる最大限の声と笑顔でお客様に挨拶をさせていただきました。私の主なお仕事は、お茶とおしぼりをお出しすることとお茶淹れ、お客様にお茶のおかわりを伺うこと、お客様のお皿をお下げすること、机拭きとお盆拭きでした。もちろんお客様への挨拶も基本的に行わせていただきました。お茶とおしぼりをお出しすることとお茶のおかわりを伺うことでは笑顔を欠かさず、はっきりと話すことを心がけていました。お客様の中には「研修中ですか?」、「私も一中生でした。頑張ってくださいね。」と優しく声をかけていただいたとき、心が温まるような

ものを感じて、「もっとお客様のために頑張りたい」「すごくお仕事が楽しい。」と心から思えました。一度そう思うと、約3時間の営業時間は本当にあっという間に過ぎていき営業時間終了の3時になっていました。1日目が終わりと、家に帰ると力が抜けたのか一気に体に疲労が押し寄せました。明日も1日頑張ろうと思いつつぐっすり眠りました。2日目は声が少し枯れていて腕の筋肉痛もありましたが、職場に着いて厨房に向かったときには症状が全て吹き飛んでいました。開店前の作業は1日目と同じだったので、1日目のご指摘を活かして作業を行っていくといつの間にか新芽さんの営業時間が始まりました。2日間もお客様は絶えることなく入店されていて、1日目にも入店されていたお客様もお越しになっていました。そのお客様は「今日も頑張ってるね。応援してるよ」とおっしゃってください、今までにないくらいの温かさに包まれました。なぜなら、昨日の努力はこのお客様に伝わっていることをお客様との会話を通して知ることができたからです。知らない人と会話することが苦手だった私が、お仕事を通して苦手を克服することができたのは私にとって大きな一つの進歩であり、その嬉しさは体験からしばらく経った今でも忘れられない感覚です。その後も基本的な挨拶や1日目のお仕事と同じ内容を体験させていただいたことで、1日目の反省を活かしてお仕事を体験することができました。例えば、お茶のおかわりを伺うときはテーブル一つずつに声がけをすることでお客様一人一人とたくさんお話をさせていただくことができたり、おしぼりやお茶をできるだけ早くお出しするためにお盆の使い方を工夫してお客様にお出しすることができました。しかし、ある時一テーブルのお客様におしぼりとお茶が行き届いておらず、お声がけくださったときに初めて気づきました。すぐお客様にお茶とおしぼりをお出しして、何度も謝罪をさせていただきましたがお客様は笑ってお許しくださいました。ほっとしたものの、社会に出たときこの失敗は許されないこともあるのだから気をつけなければと思いました。私はお店が閉店し終わった後に、事業所の方にお仕事の際に心がけていることを伺うと、「おもてなしの心を忘れず、丁寧な接客をすることを心がけています。」と教えていただき、とても納得が行きました。若葉旅館さんは働いている全ての方がおもてなしを心がけていることで、お越しになるお客様との会話がこんなにも温かいのだなと思ったからです。この温かさが接客ならではの良さであり、接客業を職業として選ぶ人の一つの理由でもあることが分かりました。この職場体験で感じる事ができた温かさをもとに接客業の職業も将来の選択肢に入れて、今からそしてこれからも将来に向き合っていこうと思える職場体験でした。